

各都道府県市町村教育委員会教育長 様  
各国立大学法人・公立・私立中学校長 様  
各中学校技術・家庭科担当者 様  
関 係 各 位

第57回東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会  
大会運営委員長 中村 真也

第57回東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会  
令和2年度三重県中学校技術・家庭科研究大会

## 三重大会のご案内（最終案内）

時下、皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、第57回東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会を三重県で開催することとなりました。

本研究会では研究主題を「持続可能な社会づくりと生活を創造する技術・家庭科教育」として、技術・家庭科教育の充実発展を目指し、実践的な研究を進めております。

皆様におかれましては、本研究大会に是非とも参加していただき、ご指導、ご助言を賜りますようご案内申し上げます。

### 大会開催要項

- 主 催 全日本中学校技術・家庭科研究会  
東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究会  
三重県中学校技術・家庭科研究会
- 後 援 三重県教育委員会  
国立大学法人三重大学教育学部、名張市教育委員会、津市教育委員会  
松阪市教育委員会、伊勢市教育委員会、三重県小中学校長会  
三重県産業教育振興会、日本産業技術教育学会  
公益社団法人全国中学校産業教育教材振興協会

### 3 研究主題 「持続可能な社会づくりと生活を創造する技術・家庭科教育」

＜主題設定の理由＞

現代は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造は大きく、急速に変化している。また、成熟社会を迎えた我が国において、一人一人が持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出すことが期待されている。本研究会においては、これまで、「獲得した知識や技術を主体的に活用する力、いわゆる確かな実践力」の育成を主題として研究を進めてきた。その際、「安全・安心な生活の視点」を導入した授業の工夫を図ってきた。研究の結果、確かな実践力の育成とともに、さらなる高次の課題に主体的に取り組もうとする態度の育成について一定の成果が得られた。しかし、今後は、安全性のみならず、環境負荷や経済性、健康や快適さ等、持続可能な社会の構築における現代的な諸課題に対して、従来よりも多面的・多角的な視点で課題を捉えることが求められる。これらのことから、中学校技術・家庭科においては、技術・家庭科の見方・考え方を基に、社会の激しい変化に主体的に対応し、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することが重要であると考え、「持続可能な社会づくりと生活を創造する技術・家庭科教育」を研究主題とし、教材の開発や教育効果の検証を行う。

4 指導助言者

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 上野 耕史 様

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 丸山 早苗 様

5 各分科会内容について

第 1 分 科 会	材料と加工の技術	
	授業者	山田 篤志 (名張市立赤目中学校)
	提案者	竹本 義久 (名張市立南中学校)
	他県提案	静岡県
	題材名	持続可能な社会づくりと生活を創造する技術・家庭科教育 －多面的・多角的な視点で課題を解決する生徒の育成－
授業概要	多面的・多角的な視点を持ち、思考を可視化するためのワークシートを活用しながら、自ら設計したテーマに即した椅子を製作する。	

第 2 分 科 会	C エネルギー変換の技術	
	授業者	土谷 明匡 (松阪市立久保中学校)
	提案者	中西 瞭真 (松阪市立三雲中学校)
	他県提案	富山県
	題材名	持続可能な社会づくりと生活を創造する技術科教育 －地域の担い手であるということ意識して－
授業概要	「松阪市に必要な電気自動車を開発しよう！」という題材。地域の課題を積極的に見つけながら主体的、対話的に解決しようとする学習を進める。	

第 3 分 科 会	B 生物育成の技術		
	授業者	小川 祐一 (伊勢市立御菌中学校)	
	提案者	藤波 純司 (伊勢市立二見中学校)	
	他県提案	福井県	
	題材名	育成環境の最適化をめざすダイコンの袋栽培	
	授業概要	生物育成分野の題材として培養土の袋をそのまま使ったダイコンの栽培を行う。まず春播きで実際に育てる中で失敗も含めて得た経験をもとに、秋播きでもう一度挑戦しよりよいダイコンの収穫をめざす。	
	D 情報の技術		
	提案者	河邊 大輝 (鳥羽市立鳥羽東中学校)	
	他県提案	愛知県	
研究概要	社会にある問題から課題を設定し、2台の Micro : bit を活用して、センサでのデータの取得、ネットワークによる通信、プログラミングによる自動化の技術を活用し、解決策を構想する実践について報告する		

第 4 分 科 会	C 消費生活・環境	
	授業者	林 歌織（三重大学教育学部附属中学校）
	提案者	田中 かおり（津市立橋南中学校）
	他県提案	石川県
	題材名	商品（食品）の選択
	授業概要	これまでに学習した知識・技能を活用し、調理実習で使用する食材について検討し、主体的に実践的に選択させる。その際、「持続可能な社会」「環境への配慮」「安全・安心・健康」の視点を取り入れる。そして、自分の生活や社会の中の課題に気づかせ、よりよい生活に向け改善しようとする態度を養う。
	A 家族・家庭生活	
	提案者	長谷川千恵子（四日市市立羽津中学校）
他県提案	岐阜県	
研究概要	総合的な学習「福祉体験教室」を、生活に関する様々なものの見方や考え方に気づいたり、自分の家庭生活や地域社会と深く関わっていることや、自分が地域に貢献できる存在であることに気づいたりする機会として位置づける。その前後の学習を家庭科が担い、中学生に地域との協働の主体としての自覚を促し、自分が地域の人と共に何ができるかを考え、実践する力を育成する。	

第 5 分 科 会	B① 衣食住の生活（食生活）	
	授業者	山口しのぶ（伊勢市立厚生中学校）
	提案者	奥野 敦子（玉城町立玉城中学校）
	他県提案	富山県
	題材名	未来につながる家庭科教育—地域の恵みを生活に—
	授業概要	生産者、販売者、消費者のあらゆる立場で多角的に考えたものをもとに、地域の食材でアイデア料理を考案し、発表する。より魅力的な料理の完成に向けてグループで話し合い、工夫改善を行う。

第 6 分 科 会	B② 衣食住の生活（住生活）	
	授業者	徳田 雅美（松阪市立久保中学校）
	提案者	伊藤 聡美（松阪市立鎌田中学校）
	他県提案	愛知県
	題材名	生きる力をはぐくむ家庭科教育をめざして ～家庭科における『生きる力』をはぐくむ防災教育～
授業概要	安全で快適な住まいとは何かを理解し、自然災害に備え安心して住まうことができる住空間の整え方や、住まいの工夫を考え、自らの課題として捉え見直そうとする授業を展開する。	

6 大会参加費

(1) 大会参加費用 資料代 (送料込み) 4,000円

※ 振込手数料はご負担ください。

(2) 申込期間 令和2年7月1日(水) ~ 9月9日(水)

(3) 申込方法 大会申し込みWEBサイトで各自がお申し込みください。

大会申し込みWEBサイトは、三重県中学校技術・家庭科研究会公式WEBサイトの  
リンクからお進みください。

<http://ajgika.ne.jp/~mie/>

7 大会事務局

玉城町立玉城中学校 宮間 敬

〒519-0415 三重県度会郡玉城町田丸 114-1

TEL 0596-58-3057 FAX 0596-58-5448

MAIL [erepuro@hotmail.com](mailto:erepuro@hotmail.com)